

特定非営利活動法人(NPO法人)

# 連塾ニュース

第7号

平成23年7月30日発行

(所在地: 〒700-0015 岡山市北区京山1-2-21  
☎086-251-4615)

編集担当  
角田みどり・田口琢磨

## 「結局一人がすべて」

～東日本大震災と連塾の活動を思う～

理事長 松畑 熙



東日本大震災の復旧支援ボランティアのために学生を引率して気仙沼に発たれる松畑理事長 H23.7.10 岡山駅にて

「東日本大震災」から4ヶ月が過ぎ、復興への長い道を少しずつ進み始めている昨今です。私は勤務校の中国学園大学・中国短期大学が公的に行っている「学生災害ボランティア」の派遣で、宮城県気仙沼高校の避難地に行きました。学生と同行し、2泊3日ですが、避難者と同じ体育館で寝食を共にし、ボランティア活動もして、大変貴重な体験をすることができました。

おおよそ1ヶ月前、交流協定調印のため、アメリカ合衆国・アーバイン市に出張しましたが、その時にも基本的には同じ課題を痛感しました。それは、全てのことは、「結局一人が全て」であるということです。その営みのコア(核)になっている「一人」が、どのような全体の中核に位置して全体が形成されているかで、その営みの全てが決まるのです。気仙沼高校体育館の避難所でのコアは、「坂井政行」氏です。クリーニング店経営者でしたが、その店も自宅も全て津波がさらっていきました。避難者である坂

井氏は、絶望のどん底からはい上がって、避難者数百人(現在は約80名)を束ねるリーダーを務めておられます。人間的にも統率力も超一流という感じで、坂井氏にお会いだけでも行った甲斐がありました。朝5時過ぎから前夜までのゴミの後始末などに精を出されている姿に接し、「私が率先してやらねば・・・」と低姿勢。避難生活の最初2ヶ月間は、ヨコの繋がりを図りたいからと、体育館にあえて皆「ごろ寝」をし、その後ダンボールで仕切った「家」住まいをしてきたとのこと。感心しました。

私たち「連塾」・「健塾」は、「自分づくり・人づくり」を原点にした活動をしていますが、すべては「私一人」から始まることを再確認したいと思います。会員一人一人が自分づくりに邁進しながら、自分にできること・すべきことをし、自分がコアになりながら、「この指とまれ」の掛け声で集まって、いろいろな活動が展開されていきます。

「東日本大震災」が問いかけている「私にとっての意味」をしっかりと見つめ、「いつでも・だれでも・どこでもできる」としての「祈り」を基盤に、各種の活動を協働して進めましょう！



出発式で学生を激励

## 新入塾生よりひとこと



池本 行則 (連塾7期生)

昨年夏、私は『はやぶさ』という映画を、自主上映しようと思い立ちました。そして企画を実現するために、多くの方達と出会いました。一人ではできなくても、多くの人達が集まれば何かを成し遂げることができるのではないかと。

その「思い」から始めた活動を通して、まるで星が引力により集まるかのような不思議な体験しました。

中でも、松畑先生との出会いは宇宙が導いたかのようにでした。

人と人との繋がりが「連」である塾で学ぶ事で、「コミュニティとコミュニケーションの創造で未来に変化を起こす」ことを実現させていきたいです！！



四俵育久子 (健塾6期生)

私は、41年間住友生命に勤務し、仕事と主婦を両立させています。健塾入会のきっかけは、塾長の松畑先生が主人の知り合い(広島大学グリーンクラブ発起人)であり、今年2月に開かれた先生の出版祝賀会パーティーに出席の折、入会はいかがですかとお誘いを受けました。このお声かけで、即入会を決定いたしました。

松畑先生がご来宅の際には、私の手料理でおもてなしをいたしますが、田舎料理をいつもおいしいと誉めてくださいます。主人の体調のこともあり、何か勉強をしなければと思い入塾しました。いろいろな分野の専門家の方々から、幅広い知識を吸収させていただきます。

## 今年の熙連会・懇親会

“焼肉”に舌鼓を打ち・・・  
ヒートアップした展開が!



平成23年5月7日(土)

毎年の5月に恒例となった熙連会(連塾・健塾同窓会)は、コミュニティプラザ連塾を会場とし、これまでにない33名という多数のご出席で開催されました。



前半は、参加者お一人お一人のユーモア溢れる自己紹介で笑いが広がった楽しいひとときでしたが、後半はお酒の勢いもあって、舌戦が繰り広げられました。余りに過熱したやりとりで驚かれた方もおられたでしょう。後日の理事会では、「大切な話は、お酒を飲む前に済ませよう」という意見が出された程でした。「雨降って、地固まる」になるようにしたいものです。

## 順調に進む「和楽プロジェクト」

連塾7期生の船越耕太さんと山室顕規さんのお二人が立ち上げられた福島被災地支援のための企画です。これまで、NPO法人連塾の皆さんから、お米・衣類・生活用品等の義援物資のご協力をしてきました。当初、福島からの避難が実現するのか不安視するご意見もありましたが、今夏、24人の親子さんが民宿「わら」にやって来られます。一時的な住居として連塾4期生の平井芳和さんが、お店「名玄」の2階を提供して下さることになりました。今後も「和楽プロジェクト」を支援していきましょう!

## 編集後記

\*被災地に思いを寄せて

3/11の大地震・大津波発生から約4ヶ月が過ぎましたが、被災地では死者・行方不明者は計約2万名を超し、約8万7千人の方々が避難生活を続けておられます。また、数年はかかるだろうとされる“瓦礫”の処理、漁業従事者の皆様の仕事再開、破壊された住居の再建...等を思うと、気が遠くなる思いがいたします。東日本の皆様は、こうした苦難を乗り越えられ、一日も早い復興に取り組んでおられます。永田町では、被災者の皆様の心情とはかけ離れた相変わらずの権力闘争...日本の政治の貧困さには、目を覆いたくなるばかりです。こんな時、女子サッカー「なでしこジャパン」のW杯優勝は、沈みがちな日本人の心に明るい灯りをともしてくれました。

(連塾1期生・角田みどり、田口琢磨)

## 塾生による

リレー・エッセイ(7)



## 人を大切にする 社会に向けて



則安俊昭 (連塾5期生)

多くの自治体が、「安全・安心」を政策目標のひとつに掲げています。なぜ、個人の心の状態に大きく依存する「安心」が、公に対して求められるのでしょうか。

日本は、世界で希に見る長期の平和と国民の勤勉さで、大きな経済発展を成し遂げてきました。しかし、一方で、権利意識の高揚の風潮に乗って、日本人の美徳である自己責任、恥の文化は薄れて過剰と思えます。かつて「徳総中過流」と言われた平等(均等?)社会は、

「セレブ」、「下流」という言葉が平然と使われるような、いわゆる「格差社会」に変質しました。さらに、経済の低迷と少子高齢化で、将来の年金などにも不安が付きまといまいます。また、地域、職域、さらには家族の中でさえも人の繋がりが希薄になり、困ったときに頼れる人がいない「無縁社会」とも言われています。こうした中で生じた漠然とした不安が、公に「安心」を求めることに行き着いたのではないのでしょうか。

それでは「安心」が真のニーズとして、公は、どう応えるべきでしょうか。甘い言葉で、「安心」が施されるのを待たせたのでは、何も解決しません。自己責任を基本とする自助の精神と、人付き合いの面倒臭さも併呑する「お互いさま」という人の繋がりを、すなわち互助の精神、この自助と互助の精神の復興を目指す施策こそが、解決策になるのではないのでしょうか。そして、一人ひとりが、他者だけでなく自身も含めて、『人を大切にする』ことが、今最も必要なことだと思います。

こんな個人的な思いを持って役所に勤め、たまに連塾に通う日々も楽しいものです。



岡山県庁で健康推進課長として執務中の則安さん

## 事務局から

平素よりお世話になっております。今後の行事についてお知らせいたします。

【8月】	27日	10時～	健塾	13時～	連塾
	〃	16時30分～	NPO法人役員会		
【9月】	25日	10時～	健塾	13時～	連塾
	〃	12時～	NPO法人役員会		
	〃	16時30分～	地域創生フォーラム 実行委員会		
【10月】	22日	13時～	健塾・連塾合同研修会		
【11月】	26日	10時～	健塾		
	〃	12時～	NPO法人役員会		
	〃	13時～	連塾		

なお、11月12日(土)・13日(日)に茨城への県外視察を予定。奮ってご参加の程! (連塾1期生 尾藤 寿実)

**福島・原発事故を受け 岡山の実家に避難された  
大塚 愛さん・大塚尚幹さんご夫妻の  
お話を伺いました** 5月例会

平成 23年 5月 29日 (日) 14時~16時



大塚 愛さん

福島県の山中、川内村で米・野菜づくり、太陽光エネルギーによる自給自足の幸せな生活を送っておられた大塚愛さん・尚幹さんご一家。3/11の東日本大震災ならびに福島原発事故を受け、ご家族4人の生活がそれまでと一変しました。大工の経験のある愛さんと、一級建築士である尚幹さん手づくりの住居は大地震を受けても大きな影響を受けず、その日の夕方には、元の生活が取り戻せました。ところが、福島原子炉も大打撃を受けたとの報を受け、放射能の恐怖から2人の子どもたちを守らなければと、その夜の内に福島脱出を決断され、後ろ髪を引かれる思いで12年間住み慣れた古里を去られた経緯をお聞きました。後半は、夫である大塚尚幹さんから、「きこりの家プロジェクト」として活動しておられる「完全エネルギー自給型の提案」をしていただき、自然エネルギー志向の貴重なお話を聞かせていただきました。岡山に帰省されたお二人は、以前から参加されていた「反原発」(ヒロ・アクション)の講演をされたり、「福島に想いをよせて」エネルギー・パレードを実行されたり、被災地・福島を岡山に招いてサポートする「子ども未来・愛プロジェクト」を主宰されたりと精力的に活動しておられます。私たち連塾・健塾会員も、何か連携・協働できることを見つけ、お二人の活動を支援したいという思いを強くしました。心から応援しています。

**「バンクーバーで生活してみよう」6月例会「みんなで歌を唄おう！」**

平成 23年 6月 29日 (日) 11時~12時

平成 23年 6月 29日 (日) 14時~16時

健塾6月例会は、1期生の高橋澄代さんが、今年4月中旬から5月下旬までの約1ヶ月間、カナダのバンクーバーで生活され、実感したことをパワーポイントにまとめて、「バンクーバー〜生活してみよう〜」と題してのご講話をしていただきました。



美しいバンクーバーの風景

バンクーバーの美しい風景が多数の写真で紹介され、カナダと日本の法律や教育の在り方、ものの考え方の違いなども話され、非常に有意義な講話となりました。



高音の美しい声で千房さんが弾き歌い

連塾6月例会は、2期生である千房新太郎さんが平素ボランティア活動として、病院や施設で行っておられる音楽活動仲間の志岐京子さん(ボーカル)、森山純子さん(電子ピアノ)と一緒に、歌と演奏を披露してくださいました。参加者の皆さんにとっては青春時代を思い起こさせる懐かしいメロディが続き、松畑理事長の熱唱や全員合唱も加わって、心が癒される楽しいひとときを過ごせました。

**再び、船越康弘氏を講師にお招きして  
「食べ物を食べると運命が変わる」をお聞きしました**

平成 23年 7月 29日 (日) 15時~17時 会場：木になる情報館(ハウジング山陽2階)



熱く語られる船越康弘氏

連塾が船越康弘さんを講師にお招きするのは、昨年の2月例会に続いて2度目となり、皆様の強いご要望を受け実現しました。今回は、公開講座としたために57名という多数の参加者で会場が満席となり、いつもに増して熱い「船越節」を聞くことができました。幼少時より虚弱体質で病気ばかりしておられた船越さんが、20才の時に出会った桜沢如一氏の思想から、食物に感謝していただく「生玄米療法」で健康状態が劇的に改善され、若い時から抱いていた数々の「夢」が次々に叶えられていったのです。従来、国が推奨していた「一日30数品目の栄養素、肉・卵・牛乳」の栄養指針は間違っており、「マクガバン報告」(1977年)や「ザ・チャイナ・スタディ」(2009年)で提唱された「米を中心とした穀物と菜食」が最も健康維持に適していると強調されました。ご子息の病気やご自宅の火事など、幾多の人生の苦難を乗り越えられた船越さんが、2年前に大病を克服された後に皆さん方に宛てた「感謝のメッセージ」を読まれ涙された場面には、私達も共感し胸を打たれました。「生きているだけで百点満点」という船越さんのお言葉がズシリと重く響きました。講演会・懇親会の開催につきまして、受付から食料の買い出しまで絶大なご協力を頂いたハウジング山陽社員の方々に、心から感謝申し上げます。



多数のご参加で盛況だった懇親会

**中川いんの描いたイコンに感動し、  
「第10回旧街道歩く会」は盛会でした**

**旧街道  
歩く会**

H23.5.22(日)



平井基代  
(連塾6期生)

朝から降り続いていた雨も、川辺宿駅に集合し、いざ出発という頃には、幸運なことにピタリと止みました。10時過ぎに出発式をした後、道の周辺に存在する名所・史跡のガイドブックが手渡されました。まず最初に、下二万にある「勝負砂古墳」を通り、小学校校庭で休憩の後、屋前に柳井原ハリストス正教会に到着しました。外観は、日本建築のように見えたが、一歩中に入ると、ロシア正教会が目の前に開け、正面中央には経台(アナロイ)が置かれており、周囲の壁には数多くのイコン(聖画)が飾られていました。中でも、日本人のイコン画家「中山りん」の描いたイコンは格段に柔和で温かい慈悲に満ちた表情で、心を打たれました。講師の植田心壮先生から、「中山りん」の生涯についてもお聞きすることが出来ました。時間が足りない位で、昼食後も先生のお話が続きました。その後、干潮・満潮の水位の差を利用した一の口水門(高瀬舟通し)や白神源次郎記念碑を見学し、西阿知駅で解散しました。歩くのがおっくうな私が長距離を歩けたということで自分ながら大変感激し、夢のような一日となりました。



植田心壮先生の熱心な説明に聞き入る参加者の皆さん

**日本熊森協会  
岡山県支部  
総会  
H23.6.4(土)**

**大自然の中での  
総会行事と研修**

6月4日(土)~5日(日)の一泊二日で、一昨年設立された日本熊森協会岡山県支部の今年度の総会行事と研修会が、民宿「百姓屋敷わら」で行われました。大自然のきれいな空気と美しい風景に囲まれ、総会の議事も順調に運ばれました。翌日の薪割り作業ではいい汗を流し、食事最高味でした。



百姓屋敷「わら」での岡山県支部総会



翌日の薪割り作業



薪で火をたき、手づくりのうどんとおむすびでの昼食風景

**桧製のジャングルジムが誕生！**

**伊部  
つながりの森  
活動**

H23.7.2(土)



完成した桧製ジャングルジムで早速遊ぶ子供達

天気にも恵まれた7月2日(土)、地域の方及び熊森協会会員の方他約70名が参加され、(社)岡山県建築士会東備支部のメンバーが中心となり、桧製ジャングルジム(設計図製作・木材の端材利用)を参加者が4チームに分かれ、各層を別々に下組みしたものを順番に縦につないでいき、見事完成させることが出来ました。

写真は早速遊ぶ子供達の風景で、参加されたお母さんからは「夏場鉄製のジャングルジムは熱くて遊べないが、木製だと熱くなく手触りも良いので、安心して遊べる」との感想でした。次回の活動イベントは、9月3日(土)に行いますので、ぜひご参加ください。(連塾3期生 安田 年一)